



軽トラ × 野菜

軽トラで当別産を直売

食の安全が問われている中で、当別と札幌の特性を活かす『地域連携』を図るため、8月30日（土）に札幌市厚別区の「ふれあい広場あつべつ」において町内農家22台の軽トラックの荷台にじゃがいも、とうもろこし、トマト、ブロッコリーなど23品目の農産物を積み込み、「あつべつ軽トラ・マーケット」を開催しました。また、9月7日（日）午前には狸小路5丁目「東宝プラザ前」で「当別町朝市」を、同日午後には「さっぽろシャワー通り」（札幌パルコ裏）でも当別の新鮮野菜を販売しました。





新たな取り組み 『とうべつ軽トラ・マーケット』

軽トラ マーケットとは、札幌市に隣接する本町が安全な食料を供給するという役割を担い、大消費地と連携を深めることで、当別町の基幹産業である農業の振興を図り、「まちづくり」の推進に繋げようとするものです。

野菜の多くは、収穫した時点から品質の低下が始まってしまいます。本当の野菜のおいしさを札幌市民の皆様へ届ける方法はないものか。それが出来るのは、札幌市に隣接する農業のまち『当別町』が担わなければ……。これが、『とうべつ軽トラ・マーケット』開催のきっかけでした。

この実現に向けては、まず、生産者の方々に農産物を生産するだけでなく、消費者の皆様へ直接販売することの喜びを知ってもらうこと、そして、消費者の方々には、当別で生産される農産物は新鮮でおいしく、かつ安全・安心とすることを理解していただくことが重要と考えました。また、新たな取り組みのために多額の投資などで、生産者の負担になってはいけなく、そこで、農家の日常の足である軽トラックに野菜を積み、直接、札幌市へ持ち込み、市民の皆様へ提供しようと考え、札幌市、札幌狸小路商店街振興組合、札幌シャワー通り商店街などのご協力をいただき、とうべつ軽トラ・マーケット、当別町朝市等の開催へと繋がりました。

当別産を札幌市民へPR

い ずれの会場でも、軽トラで運んだ農産品には、並べる前から人だかりができ、販売すると同時に売切れてしまう農産品も続出し、急ぎよ、追加で運び込みを行ったものもあっという間に売り切れてしまいました。

大勢の消費者からは、「今度はいつ来るの?」「新米はいつ頃販売するの?」といった声がありました。

農家の人達は、慣れない販売をしながらも張り切った笑顔が溢れ、従来の農産物を作るだけの喜びだけではなく、買ってもらえる幸せを肌で実感できたのではないのでしょうか。

これを契機に消費者と生産者が直接ふれあうことができ、新鮮でおいしい農産品が当別ブランドとして定着するよう札幌市と当別町との連携が期待されます。



軽トラマーケットに出店しました



石田秀人^{さん}
(高岡)



荒戸恵子^{さん}
(樺戸)



軽トラはユニークな販売方法

軽トラで会場に到着すると、荷台に商品を並べる間もなくお客さんが押し寄せ、あとは、売って売って売りまくり、気がついたら完売していました。「今度はいつ来るの？」と何度も聞かれました。

今回は、どれだけ売れるかわからない中での開催だったので、手探りの状態でした。軽トラで販売する手法は、ユニークな取り組みで今後も続けて行ければいいと思いますね。その中での課題は、出店者同士が協力して売体制作りをどう進めるかだと思います。

売り方を考えると、米、野菜、花など、多くの種類が揃うことで消費者のニーズを満たすことができます。このことを考えると、一戸の農家だけでなく、何件か集まって販売する必要があると思います。

これからも、軽トラマーケットなど、直売の利点を活かしてお客さんと顔の見える交流を進めて行きたいと思います。

お客さんから刺激を受けました

何か試食があった方が喜ばれるのではないかと思い、きゅうりの漬物10kgと、レシピを持っていきました。お客さんからは、野菜の簡単な保存方法や調理法を聞かれたので、ただ品物売るのではなく、野菜の特徴や料理方法を勉強する必要があると感じました。

それと、買い物に来る方の年齢や家族構成を考えて品物をそろえる必要性を感じました。大きめのかぼちゃを用意したのですが、売り始めると高齢者のお客さんが多く、食べきれぬ量を購入するので、小さめのかぼちゃがどんどん売れていきました。

直売では、市場に出荷することと違って、お客さんの反応が見られるので、来年はどんな野菜を作るかなって励みにもなりますね。

今回のように、町内の農家が協力、刺激合うことで、当別の農業が変わるきっかけになればと思います。

当別産のおいしさを伝えるために

今回、軽トラックでその日の朝採ってきた新鮮な野菜を運び、荷台でそのまま売るというスタイルを取りました。このような販売形式は今までにない目新しいもので、インパクトがあり、また、視覚的にも産地から直接、運んできたことが消費者に伝わりやすく、テレビ・ラジオ・新聞など多くのメディアに取り上げられ話題となりました。また、開催場所の確保、備品の借用、イベントのPR等札幌市の全面的な協力体制の下にたくさんの方にきていただき、商品である野菜の完売という成果を得ることができました。しかし、この取り組みの目標である『本当の野菜のおいしさを札幌市民の皆様に届ける』には、繰り返し、軽トラ・マー

ケットを開催し、生産者・消費者の皆様に理解していただくことが重要だと考えています。

今後、検討していかなければならない様々な課題もありますが、町としては、出店した農家や消費者の意見を聞きながら今回のイベントを検証する必要があります。その上で、より効果的な販売方法を検討し、来年度も消費者に喜ばれる「軽トラ・マーケット」の開催を検討したいと考えています。

▼担当

経済部農林課 (☎ 23 - 3091)

商工課 (☎ 23 - 3129)

